

Library Mate



対談：「現職を離れるにあたって」 三隅館長VS茂木部長

司会：来年の3月いっばいで館長は任期終了、部長は役職定年ということでお二人そろって現職を離れるわけですが、まず就任時、就職時から現在までのお気持ちや印象、思い出をお伺いしたいと思います。

館長：宮沢文雄先生の後を継いで館長に就任しました。就任時の図書館の印象は素晴らしい伝統と歴史、黒川文庫や山岸文庫に代表される古典籍が豊富なこともあり、名誉なことと思うと同時に、図書館が今後どう展開していくかに対しての責

任を痛感いたしました。私は、新入生へのオリエンテーションでよく言うのですが、「図書館を最大限に活用した人にとってはその図書館は日本一の図書館になる。学問への情熱に応えるだけのものがこの図書館にはある」と。知識というものは学生自身が求めていくことが大切です。

部長：私は終戦、まもない頃に学園に就職しました。全ての図書が戦争で焼けてしまったため、まさしくゼロからの出発でした。卒業生などから図書を寄贈してもらい、当時蔵書は一万冊もありませんでし

ホームページ公開なる！（詳細は3ページに）



三隅治雄

実践女子大学図書館館長
文学部教授。館長には平成4年就任

た。目録カードも他の大学図書館の使い古しで、そのカードの裏に目録を書いた覚えがあります。また、冬は書庫で木枠の火鉢に炭火を起こして暖をとったこともあります。

館長：私が就任したときは既に蔵書は40万冊を超えていましたが、何故、ゼロからそこまで蔵書がなったのでしょうか。

部長：当時の館長が収書に熱心であったのと同時に、歴代の学長も図書館に非常に理解を示してくれたこともあります。高額でも、必要な古典籍資料が目録に掲載されると、理事長に直接掛け合ったこともありました。そんなこともあり、他大学からは良い資料を購入していると評判にもなりました。

司会：現在進行中の図書館の機械化についてはいかがですか。機械化は他大学に比べると少々遅れていますか。

館長：私が就任した当時は、計画は出すが、実行できるかどうか分からない。かなりの足踏み状態であったと記憶しています。

部長：私が事務長になった（編集部注：平成6年）頃から道が何とか開けてきました。館員たちはそれまで力をためて、我慢していた状態でした。どこから機械化をスタートさせ、お金が出ないなら、出ないなりに工夫して、どのようにやるか、また、できるところからやっっていこうと考えました。そして、館員が情熱をもって当たってくれました。

館長：部長のリーダーシップと館員の情熱がからみあった結果ですね。

部長：いえ、館長が後ろにいて下さるという安心感は大きかった。にこにこ笑って総務との交渉に当たる館長の姿は特に印象に残っています。

司会：今後の図書館に何を期待し、どうなっていってほしいと考えていますか。

館長：図書館は、多くの図書を集め、できるだけ多くの人に伝え、そして恩恵を与えてほしい。大学内だけでなく、学外の一般の方にも。情報の流通が、大学内から、市民へ、そして世界に広がっていくようになってほしいと思います。図書館だけの世界にとどまってはくはありません。情報発信基地になり、あらゆる所に情報を発信してもらいたい。また、よく言わ

れるように、情報センターの中核になる
といい。

司会：以前は本や情報を収集するのが苦勞でし
たが、現在はある程度自然と集まってく
る。今後は集まってきた情報をいかに提
供するかが問題となると思いますが。部
長はどうお考えですか。

部長：機械を操作することも大切だが、本に対
する知識も必要。図書館の基本はやはり
本です。本の収書に対しての知識を身に
つけ、エキスパートになってほしい。本
に対する知識を吸収して、そして機械に
よって広めてほしい。根本は人対人の問
題です。

司会：最後に一言ずつお願いします。

館長：私はいいときに館長になったと思いま
す。変革から発展の時代。今後は楽しみ
でもあり、怖い感じもする。図書館に対
する愛情をもって仕事をやってほしいと
思います。

部長：私が就職した当時と現在の状態は大きく
違います。ゼロからの出発で、常に前進
している時代を生きた自分は幸せです。
これからの人は大変だと思います。常に
前向きな気持ちで日々を過ごしてほしい
と思います。

司会：本日はどうもありがとうございました。

<司会：八幡隆文（図書館事務部課長）>



茂木コウ

実践女子大学図書館事務部部長
昭和24年就職。図書館の主^{あるじ}

ホームページ公開なる！

さる10月9日に、大学図書館のホームペー
ジをインターネット上に公開いたしました。
前号でお知らせできなかったホームページの
アドレスは「<http://www.jissen.ac.jp/library/>」です。

サービス公開未定でした「向田文庫目録
データベース」や「紀要目次速報データ
ベース」は学内のみですがサービスを開始
いたしましたので、OPAC（蔵書検索）と併
せてご利用ください。

図書館では、日々、ホームページの内容
の更新を行っています。新たなものとし
て、10月18日から11月22日まで行われていた
「向田邦子資料展」のパンフレットの全ペー
ジ掲載、インターネット上でのCD-ROMデータ
ベース検索（館内のみ利用可）、世界中の図
書館のOPACやオンライン書店のリンク集
である「図書・雑誌探索ページ」等、順次
利用者の皆様に有益な情報をどんどん提供
していきます。館内又は、ご自宅のパソコン
で是非アクセスして下さい。

私の「お気に入り」

短期大学国文学科教授 堀 川 昇

私がパソコンを使い始めたのは2年半前、それから1年ほどたって、インターネットという言葉が目につくようになってきました。そこで、思いきってモデムを買い、早速のインターネット体験です。定番のコースでホワイトハウスやルーブル美術館のホームページをながめ、数年前にお世話になった、ロンドンの漱石記念館のページも読みました。

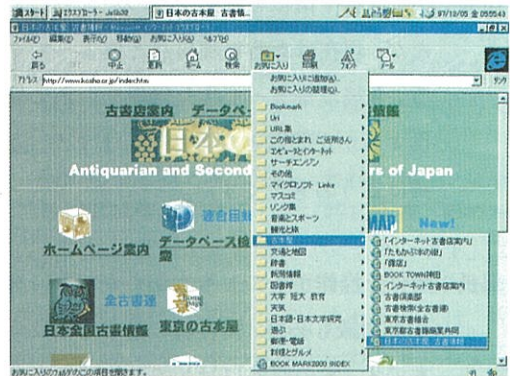
大きさにいえば、自分が世界につながったというような、新鮮な感じがしたことを今も覚えています。

ところで、ホームページに接続するには、そのURL(たとえば、<http://www.jissen.ac.jp>のような呪文めいたもの)をアドレス欄に入力するのですが、いまだに一本指打法の私には、これがけっこうおっくうな作業です。そこでマウスのクリック一回ですむように、「お気に入り」(BookMark)に一つ一つ登録します。これがどんどんたまって、自分だけのURL集ができあがりました。(画面参照。「日本の古本屋」のページを背景に、「お気に入り」を開いたところ)

この「お気に入り」にもっとも多く登録しているのは、コンピュータとインターネット関係のホームページ。パソコンや周辺機器の会社、ジャストシステムやロータスといったソフト会社、プロバイダーなど数十にはなるでしょう。

図書館や研究機関を探す場合は、文部省の学術情報センター(NACSIS)のページにある「国内関係機関のWWWサーバー」からリンクをたどっていくのが手っ取り早い。お勧めは千葉大、東工大、筑波大の付属図書館から張られているリンク。たいていのものなら見つけられるはず。もちろん私の「お気に入り」にも入れてあります。

新刊書なら、TRC図書館流通センターの「今日の新刊」とか「新刊書籍検索」が役に立つでしょう。TRCリンク集も便利。出版社、図書館にリンクでき、「本の広場」には書評もあります。



文学研究には古書も新刊書に劣らず貴重です。画面にでていいるのは古書関係のフォルダを開いているところですが、どのホームページも楽しんで見えています。ただし、ページの名前は正確ではないかもしれません。本人にとってわかりやすければいいわけですから、いつも適当に変えているのです。

学生の皆さんだったら就職関係のページなどどうでしょうか。JTBには入社試験の問題がでていますし、東京23区の公務員試験の合格者もインターネットで発表していました。企業のページを探すにはサーチエンジンを使うのもいいでしょうが、「日経インターネット・イエローページ」がCD-ROM付きで発行されていますから、それを使うと便利です。

ちょっと堅いページばかり紹介しましたが、「遊び」や「観光と旅」、「料理とグルメ」「その他」などにはおもしろいページをたくさん入れてあります。ほんとうは、そういったページを見ている時間のほうが長いくらいなのです。

もし、便利なページ、楽しいページをご存じでしたら私にも教えて下さい。また、上記のページでどうしてもURLが分からないという場合もご連絡ください。

gq7n-hrkw@asahi-net.or.jpがメールアドレスです。

検索とインターネット

生活科学部教授 飯塚幸子

生活科学部は、自然科学分野を主とするが、社会科学、人文科学分野にも大きく関連している。そしてその研究が実際の生活の場にどのように役立つかを問われる。従って自己の専門分野のみならず関連分野からも広く情報を得ることが必須となる。このときの図書館の役割は重要である。かつては非常に時間のかかる資料探索を行っていた。時間のかかる割には困難で情報量は少なかった。

今日では、蓄積されたデータベースから特定の情報を探し出す情報検索となって時間の短縮と情報量の増大をもたらした。しかしこのデータベースを使いこなすには熟達が必要となる。

たとえば、全く未知の事柄を検索する場合のデータの求め方、問題がみえていて、より究めたい場合の取り組み方等等、多様な要求がある。

それらの要求にヒットする回答を引き出すためには、数多くのデータベースのいづれにアタックするのが近道かを選ばなくてはならない。ここで司書のリサーチガイドが有用となる。そのデータベースは検索テーマに合っているのかデータベースの持っている情報量はどの位のものか、収録されている資料の内容等についての予備知識が提供されれば迷うことが少ない。

次に検索ワードの選び方も結果を大きく左右する。(検索用キーワードについては食物の田島教授が家政誌Vol.47 No.4に解説されている。)文献が多すぎて収拾がつかない、或いは非常に少なかった、また自分の欲しているものとぴたりしない等の場合、次の対策をどうしたら良いのか、アドバイスが欲しいときである。願わくば、検索前に検索テーマについて理解してもらい、正しく検索ワードを組み合わせること(私に言わせれば作戦サービス)がじっくりと

行われればありがたい。随分と、接続時間の無駄をはぶくことができるし、料金も大きな違いをもたらす。これは専門家(サーチャー)に依頼して検索するときでも、こちらの要求を的確に理解してもらうことが第一である。検索の結果出力された情報の適合率がよかったときは、仕事の充実へとつながる。

次にインターネットの情報についても見逃さない。最新の世界中の情報が(語学障害さえなければ)キャッチできることは大きな魅力である。日々の生活が研究対象である生活環境学においては、身の回りの環境に関するページは役に立つ。情報提供のあとの作者コメントも参考になる。「情報を利用する際には、その情報がいつ作成されたものかに注意せよ。技術は進歩し、世の状況は絶えず変化している、記されている解釈が通用すると限らない。外国のサイトに掲載されている情報が日本であってはまらない。社会、産業構造のなど各国で違う、安易な受け売りは危険である。情報を提供する側が掛けている眼鏡、自分が掛けている眼鏡を外してみよ。溢れる情報を見分ける能力必要」等々である。

研究者の忠告や、生活者の生の声をきくことができるし、なるほど!と思う智恵をさづかることもある。特に生活関連の情報についてはデータベース検索の前にインターネットであらかじめ情報の背景を捉えておいて、問題を絞ってから有料のデータベース検索に進むという方法を私は試みている。

おわりにインターネットや検索システムの利用は有効な情報を無駄なくいかにはやくキャッチするかである。いっそうの高度情報化の中で、司書兼サーチャーのプロとしての腕のみせどころだと思う。またそれはこれからの図書館を動かす大きな力となるであろう。



向田邦子資料展を終えて

向田邦子の多彩な作品群は、今なお世代を越えて多くの人達に読み継がれている。今年度の公開市民講座は、向田邦子の作品を中心に据えて、「家族のいる風景」～向田ワールドにみる家族～をテーマに開講された。また、今年は本学図書館に向田邦子文庫が開設されてちょうど10年目に当たる年でもあり、それに合わせて図書館も10月18日(土)～11月22日(土)まで「向田邦子資料」の展示をすることとなった。

7月初めに生活文化学科の平原教授と国文学科の栗原教授のアドバイスを受け、その後何度かの話し合いを担当者間で行った。その結果今回の展示は、第一に、一般の人々が目にするこのないシナリオ資料を中心に展示して行くこと。第二は、向田文庫内も公開すること、第三に、見て楽しい展示をすることを目標とした。テーマは、「向田邦子資料展～シナリオ資料を中心に～」～向田ワールドに見る衣・食・住～ということになった。

シナリオ資料コーナーでは、森繁久弥氏の寄

託資料である「重役読本」、「七人の孫」をはじめ「寺内貫太郎一家」、「父の詫び状」、「男どき女どき」のシナリオを図書やビデオと共に展示した。特に「重役読本」「七人の孫」では、森繁氏自身の書き込や、手直しの部分を見ることができた。また、「男どき女どき」のシナリオは、向田邦子の自筆原稿と初出雑誌の小説新潮を共に対比して展示した。これらは、生の迫力で迫ってくるものがあつたと思う。

向田邦子と衣・食・住は、それぞれコーナーごとに関連資料を展示した。特に「衣」のコーナーでは甘糟幸子氏寄贈の「マーガレット」という肩掛けセーターとその説明を書いた向田邦子の書簡(複製)を展示した。これらからは、向田邦子の人となりや心遣いが伝わってくるようであった。

向田邦子と病のコーナーは、向田邦子旧蔵書の中にあつた「丸山ワクチン」の本と弟の保雄氏より寄贈された遺品の「血圧計」「酒精綿容器」等を展示した。亡くなる6年前の乳ガンは、小説・エッセイを書くきっかけになったと言われている。人生の転機だったとも言えるのではないだろうか。

広がる向田邦子の世界では向田文庫で収集している「関連図書」と「海外における向田邦子」として英語・独語に翻訳された作品・作家紹介の図書と「向田邦子論」が掲載された中国の学術誌を展示した。日本の代表的な女流作家の一人として海外でも評価されているのを知ってもらえたと思う。

向田文庫内には、向田邦子旧蔵書とテーブル・イス・留守番電話(保雄氏寄贈)等の遺品類がある。普段は許可制で閲覧をしてもらっているが、今回のこの展示期間中は自由に入ってもらうことにした。また、文庫内に現在作成中の向田文庫目録データベースを検索できるようにパソコン端末を設置した。見学者に自由に検索してもらえ、インターネットホームページに意見や感想を寄せてきた人達がいたのは、大変良かったと思う。今後は、これらの意見を大いに参考にし活かして行きたいと思う。

今回の展示は、学外からも多数の見学があつたが、学内の学生にも向田邦子をより深く知ってもらえる大変良い機会だったと思う。

最後に、この展示会に協力してくれた図書館の職員諸氏に深く感謝したい。



Library Mail

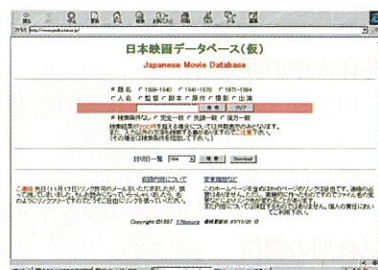
インターネットで映画情報をGet!

あの映画の原題って何だっけ?、あの俳優さんの全出演作を調べたいのだけれども、また、ビデオを借りる参考に映画のあらすじを知りたいんだけど何で調べればいいのか、とお困りの方のために、インターネット上で公開されている便利な映画データベースのホームページを紹介しましょう。

日 本

1. 日本映画データベース (<http://www.jmdb.club.or.jp>)
1899年から1994年まで、日本で制作、公開された映画のデータベース。映画の題名、監督、脚本家、原作者、撮影、出演者から検索できます。残念ながらあらすじは分かりません。

2. シネマガイド全洋画原題・邦画インデックス (<http://www.stinray-jp.com/cinema/index.htm>)
映画の原題や邦題が分からないときに便利なデータベースです。検索結果には監督と主要キャストのデータが付されています。また、多くの映画関係のホームページにもリンクされています。<図1>



<図1>

アメリカ合衆国

1. Internet Movie Database (IMDb) (<http://us.imdb.com/>)
世界最大の映画データベース。題名、出演者、キャラクターからだけでなく、上映年、ジャンル、国別、制作会社等からも検索することができます。検索結果から得られた映画データには粗筋やお勧め度等が含まれています。その他、前日の映画に関するニュースやアクセスした利用者の投票によって決定されるトップ250、ワースト100の発表など、盛りだくさんの内容です。巷では俳優さんの本当の年齢や離婚歴まで分かるという噂です。<図2>



<図2>

2. Cinemania Online (<http://cinemania.msn.com/Default/home>)
CD-ROMでお馴染みのMicrosoftCinemaniaのインターネット版です。監督、俳優等の人名、映画の題名から検索できます。検索結果には、粗筋、批評やお勧め度だけでなく、その映画の1シーンや俳優のインタビューを映像で見ることができます。こちらもアクセスした利用者自身がその映画の評価する事ができます。<図3>



<図3>

クローズド・キャプション (以下CC)・ビデオ情報

(<http://www.i-fm.com/closed-caption/index.html>)
前号でジョーンズ先生よりご紹介いただいたCCビデオについて、日本で発売されたCCビデオの新作情報と発売済みのリストが閲覧することができます。ご参考まで。

※これらのホームページは図書館ホームページ中、外部サーバの「図書・雑誌検索ページ」でリンクされています。

❀❀❀いんふお-め-しょん❀❀❀

1997年12月～1998年3月

大学図書館

冬休み特別貸出

期間：12/15(月)～1/6(火)

返却日：1/9(金)

冊数：図書 5冊

冬休み中の開館

開館日：12/22(月), 24(水)～26(金)

1/6(火), 7(水)

時間：9:00～16:00

※12月16日(火)は書庫整理のため閉館

試験期の開館

1/8(木)～1/23(金) 開館時間延長

月～金 9:00～18:45 土9:00～16:00

試験期の貸出

1/7(水)～1/24(土) 3日間貸出

試験終了後の開館

1/26(月)～1/28(水) 9:00～18:00

1/29(木)～2/14(土) 9:00～16:00

3/9(月)～3/20(金) 9:00～16:00

※1/30(金)～2/4(水)は入試のため閉館

※2/16(月)～3/7(土)は蔵書点検のため閉館

※3/10(火)～3/11(水)は後期入試のため閉館

春休み特別貸出

期間：1/26(月)～3/20(金)

返却日：4/13(月) ※卒業予定者3/19(木)

冊数：図書 5冊

※詳細や変更は掲示にてお知らせします。

編集後記

編集メンバーにフレッシュな平野さんが加わり、Library Mateをさらにパワーアップして皆さんにお届けできることになりました。よろしく願いたします。

先日資料を他の人の名前前で借りて返さないトラブルが発生しました。こんな心ない人のために管理を強化しなければなりません。図書館にある資料は皆さんが利用するためのものです。そのためにもこのようなことが起こらないよう注意しましょう。

短期大学図書館

冬休み特別貸出

図書：冊数無制限(12/11～12/25)

AV資料：6巻(12/19～12/25)

指定図書：3冊(12/19～12/25)

返却日：1/8(木)

冬休み中の開館

開館日：12/22(月), 24(水), 25(木)

時間：9:00～16:00

試験期の開館

1/8(木)～1/23(金) 開館時間延長

月～金 9:00～18:00 土9:00～16:00

1/26(月)～1/28(水) 9:00～17:30

試験期の貸出

1/8(木)～1/24(土) 3日間貸出

※雑誌は1週間貸出

春休みの開館

1/29(木), 2/24(火)～27(金), 3/3(火)～

3/6(金), 3/9(月), 3/12(木)～3/13(金),

3/17(火)～3/19(木)

9:00～16:00

※1/30(金)～2/4(水)並びに3/10(火)～

3/11(水)は後期入試のため閉館

※2/5(木)～2/23(月)は図書移動のため閉館

春休み特別貸出

期間：1/26(月)～3/19(木)

返却日：4/10(金)※卒業予定者3/19(木)

対象：図書(冊数無制限)

※詳細や変更は掲示にてお知らせします。

Library Mate 第19号 1997年12月

| | |
|-------|--|
| 発行所 | 実践女子大学図書館 東京都日野市大坂上4-1-1 実践女子短期大学図書館 東京都日野市神明1-13-1 |
| 発行責任者 | 三 隅 治 雄 |